

令和 7 年度福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会事業 取組実施報告（2/24 時点）

(1) 双葉郡教育復興ビジョンにかかる協議・検討等

1. 双葉郡教育復興ビジョン推進協議会

◇ 第 29 回

会議日：2025 年 7 月 3 日（木）13:30～15:30

（11:25～12:30 大熊町立学び舎ゆめの森授業参観・施設見学）

場所：大熊町立学び舎ゆめの森

議事内容：

- ・ 今年度の各取組実施状況について
- ・ 各町村教育委員会の現状と課題
- ・ 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校活動報告 等



◇ 第 30 回

会議日：2026 年 2 月 24 日（火）13:30～15:30（予定）

（11:00～12:15 双葉町立双葉南・北小学校、双葉中学校授業参観・施設見学）

場所：双葉町役場いわき支所

議事内容：

- ・ 今年度の各取組実施状況について
- ・ 各町村教育委員会の現状と課題
- ・ 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校活動報告
- ・ 令和 8 年度推進体制・行事計画（案）について

2. 双葉郡地域学校協働本部会議

目的：多様な主体との連携を図り、教育の充実、教育と地域復興の相乗効果を生み出す

構成：8 町村地域コーディネーター、8 町村小・中・義務教育学校およびふたば未来学園
高校、8 町村教育委員会を代表する者等

会議日：2025 年 10 月 15 日（水）10:30～12:45

場所：富岡町立富岡小中学校

議事内容：

- ・ 各町村、関係団体等の今年度の活動状況紹介
- ・ 富岡町地域交流タイム視察

関連事項：

- ① 各町村および本部コーディネーター等による外部講師のコーディネート、外部施設訪問等を実施（通年（随時））

実践例：

- 桜の聖母短期大学講師によるマナー講座（なみえ創成中学校）
- 双葉町標葉せんだん太鼓保存会によるせんだん太鼓の演奏練習（双葉南・北小学校 双葉中学校）
- Jヴィレッジスポーツ事業部講師によるトレーニング講座（広野小学校）

- ② 「双葉郡地域学校協働本部事業」紹介資料作成（予定）

目的：双葉郡地域学校協働本部の事業案内および事業報告を郡内各校で共有し、更なる連携した取組の充実に繋げる

内容：双葉郡地域学校協働本部概要紹介、各町村取組、各校実践事例等

発行部数：800部（予定）

配布対象：郡内教職員、関係者等

発行日：2026年3月（予定）

3. 双葉地区中高連携協議会（年1回実施）

目的：双葉郡としての一体感を高め、生徒の主体性・協働性・創造性を育成する

構成：県教育庁代表職員、ふたば未来学園中学校・高等学校長および8町村立中学校長、8町村教育長等（協議会長：柳沼敏文 広野中学校長）

会議日：2025年12月8日（月）13:30～15:30

場所：ひろの未来館

議事内容：

- ふるさと創造学サミット、中高生交流会、ふたば生徒会連合活動等の振り返り
- 次年度へ向けて

4. 委員会連絡協議会（年2回実施）

目的：各委員会・取組間の情報共有、連携

構成：各委員会委員長および中高連携協議会長

会議日・場所・議事内容：

- ◇ 第1回 2025年5月7日（水）10:00～11:00（オンライン開催）
 - 今年度計画・推進体制の確認
 - 各取組の情報共有（昨年度の成果・課題、今年度の概要等）
- ◇ 第2回 2026年2月9日（月）10:30～11:30（オンライン開催）
 - 各取組の成果・課題等共有
 - 次年度に向けた意見交換
 - 今年度計画・推進体制の確認

5. 双葉郡 8 町村教育委員会実務担当者連絡会議

目的：双葉郡教育復興ビジョン推進協議会の取組や行事について、8 町村教育委員会実務担当者の理解を促進すると共に、実務担当者から現場の視点を踏まえた意見や提案を受け、今後の事業改善に生かす。また、教育委員会間の横のつながりを構築し、実務レベルでの連携・協力体制を強化する。

構成：双葉郡 8 町村教育委員会学校教育実務担当者

会議日・場所・議事内容：

- ◇ 第 1 回 2025 年 11 月 19 日（水）10:00～12:00（双葉町役場）
 - ・ 双葉郡教育復興ビジョン推進協議会事業の進捗報告および予定共有
 - ・ 実務担当者の視点からの提案共有
 - ・ 教育委員会間での意見交換・情報交換
- ◇ 第 2 回 2026 年 2 月 26 日（木）10:00～12:00（双葉町産業交流センター） 予定

(2) 第 12 回双葉郡ふるさと創造学サミット

□ 趣旨

ふるさと創造学の取組を共有し、学びを通じた交流で、地域のつながりをつくる
（スローガン）

～伝えあい、つながって、広がる ふるさとふたばの学び～

町村や校種を越えて学びあい、多様な見方・考え方にふれることで視野を広げる

□ 体制：（サミット実行委員会）

実行委員長：石井智明 双葉南・北小学校長

委員：各町村小・中・義務教育学校、高校、特別支援学校、相双教育事務所より
1 名以上（計 21 名）

会議日：6 月 23 日、9 月 9 日、11 月 17 日、1 月 19 日（計 4 回）

□ 実施概要

日時：2025 年 11 月 29 日（土）9:30～14:10

場所：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

※一部セッションを後日 YouTube 配信予定

内容：郡内各小・中・義務教育学校、ふたば未来学園中学校・高等学校、ふたば支援学校の児童生徒による、各校の「ふるさと創造学」の取組を共有し合う学び
あいセッション

プログラム：

- ◇ オープニング・セレモニー（60分）※ふたば生徒会連合による企画運営



進行：双葉中

- ① 開会の言葉（川内小中学園）
- ② 来賓あいさつ
復興庁 瀬戸隆一 復興副大臣
文科省 福田かおる 大臣政務官
- ③ 代表児童生徒による意気込み発表



- ④ ふたば生徒会連合によるお楽しみ
企画猛獣狩り+じゃんけんハイタッチ+円陣
- ⑤ 閉会の言葉・開催宣言（葛尾中）

- ◇ 学びあいセッション（11会場、計22セッション）



- 今年度の各校の取組について、下記2つのパートを含めながら自由な形式で発表する。

- ①「メッセージをしっかりと伝える、じっくり聴く」パート

プレゼン型、対話型など、伝えるスタイルは自由。互いに考え、つながり、学びを広げるパートにつなげる成果発表や問題提起を含む。

②「互いに考え、つながり、学びを広げる」パート

疑問や感想、広がった考えを自由に伝えあう。その後につながる新たな気付きや課題を大切にし、自分の考えと向き合ったり、より深く知ろうとしたりする。

- メッセージを伝える側と受け取る側どちらの立場にあっても主体的に参加し、「学びあい」を充実させる。
- 1セッション 30分とし、発表 15分・対話 15分の時間配分を基本とするが、内容や人数等に応じて各校での判断も可とする。
- 「学びを広げる」パートは、小グループでの対話を基本とする。テーマ、スタイル、進め方等を含め、対話の内容は各校にて検討・実施するものとする。

◇ 昼食

◇ ふたばトーク



グループ分け：校種混合で 1 グループあたり 8 名程度

目標：ふるさとの未来についての対話を通して多様な見方、考え方にふれる

進行・記録：グループ内の中学生・高校生

対話メインテーマ：「10年後のふるさとふたば」

◇ クロージング・セレモニー（20分）※ふたば生徒会連合による企画運営

進行：檜葉中

- ① 開会の言葉（ふたば未来中）
- ② 本日の感想共有（なみえ創成中、ゆめの森）
- ③ 閉会の言葉（なみえ創成中）
- ④ 写真撮影（整列・誘導（葛尾中、なみえ創成中））



□ 参加者数 (計 697 名)

児童生徒数 483 名、教職員 142 名、来賓・関係者等 72 名



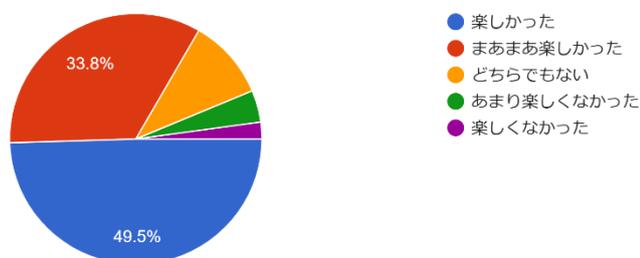
□ 活動の振り返り

振り返りアンケートより

【児童生徒】

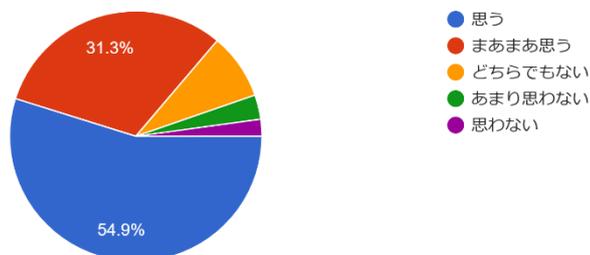
1 今年のふるさと創造学サミットはどうでしたか。どれか選んでください。

414 件の回答



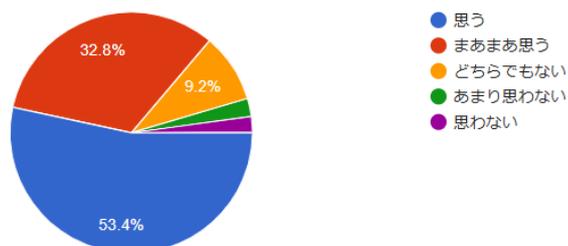
6 ふるさと創造学サミットに参加することで、他の町村の児童生徒と交流できたと思いますか。

412 件の回答



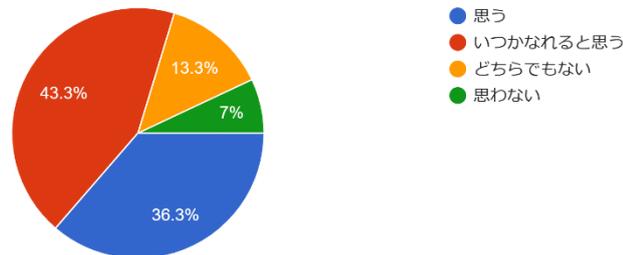
7 ふるさと創造学の学習を通して、地域やふるさとについて、より多くのことを知ることができていると思いますか。どれか選んでください。

412 件の回答



9 自分がふるさとや今住んでいる地域を元気にする力になっていると思いますか。

413 件の回答



◇ ふたば生徒会連合のオープニング・クロージングはいかがでしたか。

- たくさんの人と交流できて、とても楽しかったです！
- オープニングセレモニーのアイスブレイクで、ほかの学校の人たちと仲良くなれたので良かったです。
- 初めて会う人達とも気軽に接することのできるいい機会だったと思います
- オープニングセレモニーではたくさん他校の方と交流できる遊びがあってたくさんの方とお話しできたし、楽しかったです！！
クロージングセレモニーもたくさんの方が感想を言っていてとてもいいなと思いました！
- とても楽しかったです。心に残る良い思い出になりました。

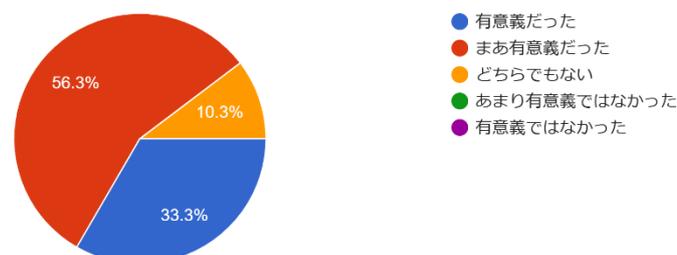
◇ 発表した場合は、自分たちが発表してみて感じたことを教えてください。

- まだまだやるべきことが多く、それを解決したいと思った
- 一年間の成果を様々な学校に伝えられることができよかったです。
- 伝えることの大切さを実感出来た
- いろんな意見が出て面白かった
- 大人数を目の前にして発表したのは初めてで、とても緊張したし、手も震えたけど、自分的には良い経験になったし、上手く発表できて良かったです。

【教職員】

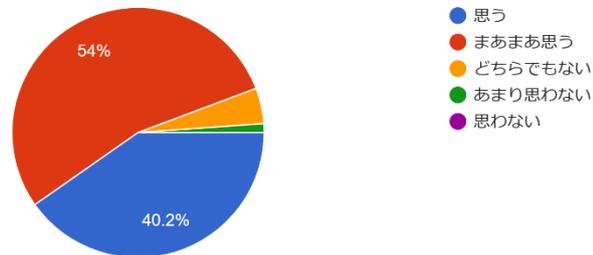
1 今年のふるさと創造学サミットはいかがでしたか。お選びください。

87 件の回答



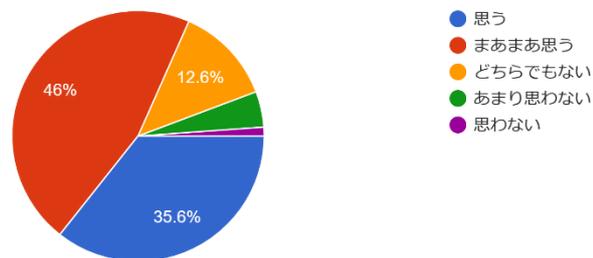
2 ふるさと創造学サミットに参加することで、自...他町村の子どもたちと交流できたと思いますか。

87 件の回答



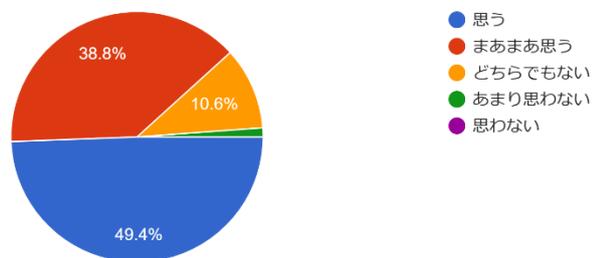
7 自校の子どもたちはふるさと創造学に意欲的に取り組んでいると思いますか。

87 件の回答



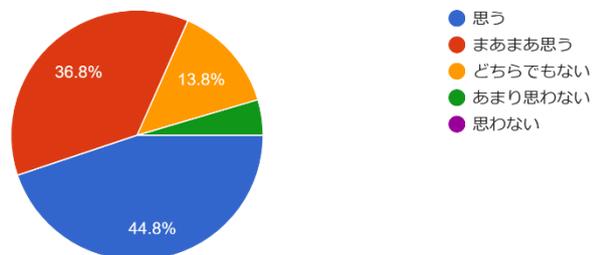
8 ふるさと創造学に取り組む中で、自校では地...教育資源を積極的に活用していると思いますか。

85 件の回答



9 自校では自校ならではの特色あるカリキュラムが編制できていると思いますか。

87 件の回答



☆ ふたば生徒会連合企画・運営のオープニング/クロージング・セレモニーはいかがでしたか。

- 交流がうまれ、とても良かったと思う

- アイスブレイクで色々な学校の児童生徒とたくさん関わっていたのでよかった。
- アイスブレイクは、生徒同士のかかわりを生むには効果的だったと感じた。
- 担当の生徒も参加した生徒も場を盛り上げたり、他校と交流したりしようとして取り組んでいた。このような場の経験を積むこと自体に大きな成果があると感じる。
- 児童生徒が主体となって進めることができていた。

☆ サミットに参加した感想（自校の子どもたちの発表および聞く姿を見て、他校の発表を見て感じたこと等々）

- 大勢の人の前で発表ができる機会は子ども達にとっても有意義な時間となったと思う
- 学校内ではなかなか見られない積極性が見られよい機会となっていた。
- 自校の発表で、緊張していたがそれ以上に聞いてもらったという達成感、満足感の方が高かったと感じた。他校も様々な取り組みがあり今後の参考になるものだった。
- 今後も発表の場や表現の場を設ける必要があると感じる。
- 他の学校の発表を聞いて、自分の意見を述べる子供たちの様子で、普段とは環境が違う中で頑張っているなど思うことができた。

実行委員会振り返りより

次年度へ向けた提案事項（投票により 9 票以上獲得した Try）

① セッション数と発表と対話のねらいの明確化

➤ 11 票

- セッション数を増やすために、オープニングやクロージングをミニマムに短縮する
- オープニングセレモニーを短くしてセッションを少しでも増やす
- セッション数を増やす。時間がのびるのであれば、1セッションの時間を短縮したり、オープニングセレモニーを削ったりする

➤ 9 票

- セッション数を 2→3。発表機会の確保

② ふたばトークの内容 等

➤ 13 票

- ふたばトークでは、聞いたセッションについて話す（まとめ、振り返りになる）感想発表だけにならないようにする
- ふたばトークの内容 簡単な内容で話す。トークの時間を短縮（30 分 →15 分）

➤ 12 票

- 改名「ふたば創造学サミット」
- モザイクアート
前：原画募集 → 当日：みんなでかく！→後：どこかの町にかざる！！ふたばを創る！（※どこの町に飾るかは検討、どこに飾るかは子どもたちと検討）
- ふたばトーク→双葉郡の交流（みんなでつくりあげる）
→ペットボトルのキャップでアートを作る、モザイクアート

(3) 第 8 回双葉郡小学校絆づくり交流会

□ 趣旨

- ふたばの未来を見据えた、8 町村小学生による町村の垣根を越えた仲間づくり
- 双葉郡内小学校・義務教育学校教職員の交流・情報交換

□ 体制：

① 絆づくり実行委員会

実行委員長：半杭千歩 富岡小学校長

委員：各町村小学校・義務教育学校、特別支援学校より 1 名以上（計 9 名）

会議日：5 月 29 日、6 月 24 日、7 月 14 日、9 月 18 日（計 4 回）

② 絆づくり中高生実行委員会

委員：ふたば未来学園中学校・高等学校、なみえ創成中学校、川内小中学園の中高生（7 名）

※ふたば未来学園中学校・高等学校、学び舎ゆめの森、福島大学の生徒および学生計 12 名が当日サポートスタッフとして参加

会議日：7 月 5 日、7 月 19 日（計 2 回）

□ 実施概要

日時：2025 年 7 月 29 日（火）9:30～13:10（開会式 10:00）

会場：大熊町立学び舎ゆめの森

対象：双葉郡 8 町村立小学校・義務教育学校児童（全学年対象）

内容：絆づくり交流活動

プログラム：

① アイスブレイク

中高生スタッフによるレクリエーション（じゃんけんゲーム、ジェスチャーゲーム）

② 開会式

- (1) 開会挨拶／開会宣言
- (2) 実行委員、サポートスタッフ紹介
- (3) 集合写真撮影
- (4) 諸連絡

③ 交流活動

低学年：まぜまぜゲーム、じゃんけんピラミッド、じゃんけん無限列車

中学年：バースデーチェーン、自己紹介、新聞紙タワー

高学年：新聞紙じゃんけん、国際理解出前講座



④ お昼・休憩

⑤ 閉会式

(1) 閉会挨拶

(2) 感想共有

(3) 講評：実行副委員長 山内美穂（川内小中学園（令和8年度当番校））

□ 参加者数（計 360 名）

児童 213 名、教職員 98 名、保護者 4 名、中高生実行委員 7 名、

中高生当日サポートスタッフ（大学生含む）12 名、関係者等 26 名



□ 今年度イラストデザイン

制作：猪狩愛里さん（川内小中学園 9 年／中高生実行委員）



中高生実行委員
当日サポートスタッフ用缶バッジ

□ 活動の振り返り・次年度へ向けて

実行委員会および各校からの振り返りより

- ✓ 「絆づくり」を内容として交流会は、震災からの時間経過を考えると児童数も増えてきているので、実施方法・実施内容を再考する必要がある。
- ✓ 震災直後の子どもたちと、今の子どもたちとは、人数も状況が違っている。交流会の目的・実施方法を見直してもよいのではないか。
- ✓ 各校人数も増え、教員主導ではなかなか難しい。ブロックや学年別実施にして、外部講師を活用してはどうか。
- ✓ 低学年のみで会場を使用できたのが良かった。次年度も同様にしてほしい。
- ✓ 自己紹介は話をせざるをえないゲーム的な形の活動でできるとよい。その際に中高生ボランティアが司会進行として入ってもらえたらよい。
- ✓ 準備物が新聞紙など、大きさにならないもので良かった。実行委員会内で準備可能な活動を検討できれば良い。
- ✓ 参加人数が増えており、学年ブロックでの活動をするには会場が手狭になっている。縦割り班での活動を行うのも良いのではないか

(4) 第 10 回双葉郡中高生交流会 FUTABA 1 DAY SUMMER SCHOOL

□ 趣旨

(双葉郡中高連携の目的)

交流を通じ生徒たちが主体性・協働性・創造性を発揮するとともに、町村や世代の垣根をこえて双葉郡のつながりを感じる

実施目標：

- ☆ お互い共感したり認め合ったりしてつながりを感じる
- ☆ 普段の学校生活の中ではできない学びを体験し主体的に参加し、わくわくする

□ 体制（中高生交流会実行委員会）

実行委員長：瀧本 基 ふたば未来学園副校長

委員：各町村中学校・義務教育学校・高校・特別支援学校より 1 名以上

(計 11 名)

会議日：6月4日、7月9日、7月22日、9月2日（計4回）

□ 実施概要

日時：2025年8月1日（金）10:30～15:30

会場：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

対象：双葉郡内中学校・義務教育学校、高校の生徒、双葉郡外の中学校・高校の生徒

内容：選択制参加型のワークショップ形式を含む活動

- ◇ A組講師：中川 悠介さん（アソビシステム代表取締役）
- ◇ B組講師：飯田 将太さん（飯田商店店主）
- ◇ C組講師：佐々木 宏さん（クリエイティブディレクター）
- ◇ D組講師：小杉 善信さん（日本テレビ放送網株式会社顧問）
- ◇ E組講師：日高 竜太さん（BALLISTIK BOYZ(Vocal/Performer)）
奥田 力也さん（BALLISTIK BOYZ(RAP/Performer)）
- ◇ F組講師：木梨 憲武さん（タレント、歌手、アーティスト、俳優）

プログラム：

- ① ふたば生徒会連合アイスブレイク
 - ② 昼食・休憩
 - ③ 開校式（ふたば生徒会連合企画・運営）
 - ◇ 開会のことば
 - ◇ 実行委員長あいさつ
 - ◇ 秋元康さんによる講師紹介、講師挨拶
 - ◇ 閉会のことば
 - ④ クラス別ワークショップ
- ※各クラスごとに終了

□ 参加者数（計411名）

生徒272名（うち郡外からの参加4名）、教職員111名、関係者等28名



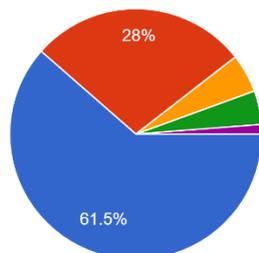
□ 活動の振り返り

振り返りアンケートより

<生徒>

3. 参加したクラスは楽しかったですか？（充実していましたか？）

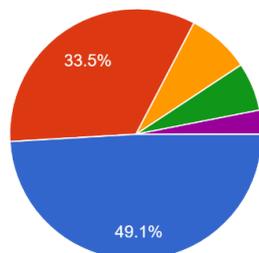
161 件の回答



- 楽しかった（充実していた）
- まあまあ楽しかった（まあまあ充実していた）
- どちらともいえない
- あまり楽しなかった（あまり充実していなかった）
- 楽しなかった（充実していなかった）

4. 他校の生徒と交流することができたと思いますか？

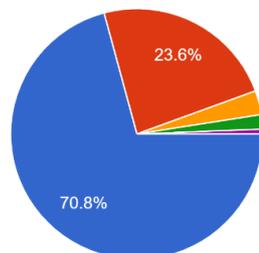
161 件の回答



- 思う
- まあまあ思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- 思わない

5. 普段の学校生活とは違う学びが体験できたと思いますか？

161 件の回答

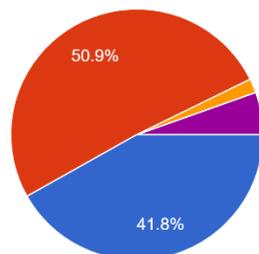


- 思う
- まあまあ思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- 思わない

<教職員>

1. 今年度の中高生交流会はいかがでしたか？

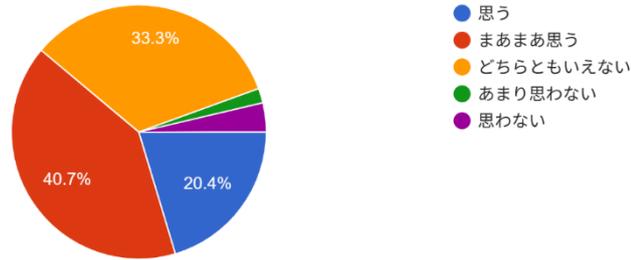
55 件の回答



- 有意義だった
- まあ有意義だった
- どちらともいえない
- あまり有意義ではなかった
- 有意義ではなかった

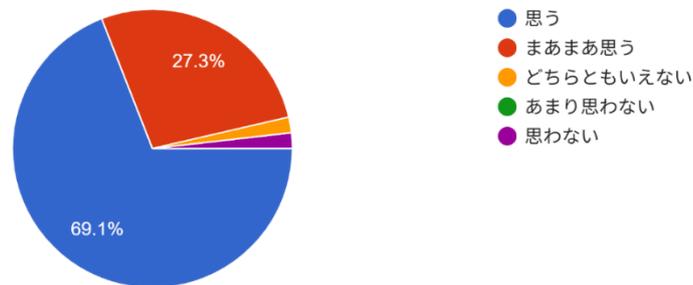
2. 本校の生徒は他町村の生徒と交流することができていたと思いますか？

54 件の回答



3. 本校の生徒は普段の学校生活とは違う学びが体験できていたと思いますか？

55 件の回答



振り返り実行委員会より：

- ✓ 厳選して講師を揃えていただいたが、世代間のギャップを感じた。子どもたちがワクワクして学べる講師が来てくれたら、より意欲的に質問や活動ができたのではないか
- ✓ 「他校の生徒との交流できたと思うか」という設問では 82.6%の生徒が「できた」と感じている。昨年は 54%であったため、大幅増。プログラムを組み替え、アイスブレイクを工夫した成果だろう。生徒会連合の皆さんに感謝したい。「参加したクラスは楽しかったか」という設問で「楽しかった」と答えたのはより高い 89.5%であった。知っている人、知っている講師、安心できる導入・展開を求めがちだが、知らない人であっても「こういう人がいるんだな」と圧倒された経験が心に残った生徒もいるだろう。講師との調整を早くし、しっかりと内容をデザインしていければよい。
- ✓ スケジュールが非常に厳しい。年度内に大枠を固め、講師の選定を早めに進めていただき、来年度の実行委員は細かい部分を決めていくという流れが望ましい
- ✓ ふたば生徒会連合によるアイスブレイクを先に行い、昼食を挟んで午後には WS という流れが非常に良かった。次年度は講師の WS の時間を減らし、交流の時間を増やしてはどうか
- ✓ 双葉郡内の生徒の人数制限及び双葉郡外の生徒の参加について議論が必要。

(5) カリキュラム検討・教員研修

1. ふるさと創造学教員研修会

□ 実施概要

日時：2025年8月28日（木）13:15～16:30

会場：大熊町立学び舎ゆめの森

目的：8町村が連携して進める「ふるさと創造学」の更なる充実、発展

内容：

- 「ふるさと創造学の創設と総合的な学習の時間の意義について」南郷 市兵 校長（大熊町立学び舎ゆめの森）
- ふるさと創造学公開授業
- 授業研究（授業者自評・対話）
- ご講話「ふるさと創造学に期待すること」・授業講評奈須 正裕 教授（上智大学総合人間科学部教育学科）

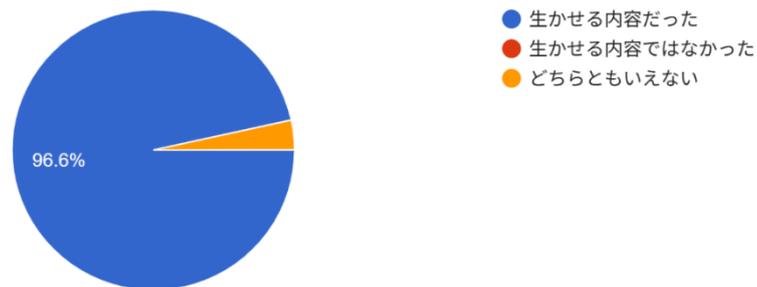
□ 参加者数：計 86 名 ※関係者含む

参加者内訳：双葉郡内 52 名（教職員 44 名、教育委員会 8 名）

双葉郡外 34 名（教職員 6 名、教育委員会等 12 名、
その他関係者 16 名）

□ 振り返りアンケートより（抜粋）

1. 今後の指導や取組に生かせる内容でしたか
29 件の回答



2. ふるさと創造学公開授業と授業研究はいかがでしたか。

- ✓ 地域とのつながりもそうですが、子ども達がやってみたい、追求したいことにたいしての先生方の見とりが深いと思いました。学校全体として、追求したいことの手助けをしており、外部との連携も多いため、これほど多くの大人が関わる学校も見たことがないです。これほど同じ方向に向かって、追求することへ環境作りが行えているのは、うらやましくもありました。
- ✓ 子どもたちがやりたいことをやり、教師が関わるという姿が印象的だった。
- ✓ 公開授業を提供していただいた学校さんの授業構成が、自由進度学習であった

ことはあるものの、学習への取り組み方や発表活動に関して大きな学びがあった。特に、個人探求における発表活動の仕方や、総合的な学習の時間のテーマ設定の仕方など、自分の学校と比べて通ずる点が多くあり、とても参考になる授業だった。

3. 上智大学 奈須 正裕 氏によるご講話はいかがでしたか。

- ✓ 探究学習が 20 世紀前半のデューイ『教育と社会』で完結しているという一言が衝撃的だった。言葉は過激だったが、「ままごと」ではなく「本気でとことん」極めるという本物の学びとそれをやらせるための教員の仕込みの重要性について、とても参考になった。
- ✓ 探究テーマは身近で切実な問題になっているか、という視点はこれまでよりもっと重要視していく必要があるのだと感じた。また、先生が手出ししすぎではいけないというお言葉から、質を気にしすぎず、もっとのびのびとやらせてもいいのかもしれないと感じた。授業の最初にスライドの発表練習を設定したが、協働を意識しすぎて子どもたちを拘束しすぎてしまったのかもしれない。自由に練習して、自由に感想を伝え合うようにしてもっとフラットにしてもよかったかもしれない。
- ✓ 子どもを探究に向かわせるには、まずは教員自身が探究する姿を子どもに見せることが大切だという話を伺い、自分自身の取り組みを振り返った。子どもに「～をさせたい」という思いが強く、自分が探究を楽しんだり、子どもと一緒に探究を楽しんだりできていなかったと反省した。子どもたちが本気になって探究に取り組めるように、学校や地域が一体となって作り出し、自分のやりたいこととことん打ち込み、できた喜び、学ぶ楽しさを実感できるような環境を整えていきたい。

4. その他

- ✓ このような研修を実施している地域は他にはあまりないと思います。双葉郡だからこそできる教育を、今後有識者のアドバイスをいただきながら進めて生きたいです。
- ✓ ふるさと創造学に望むものは、年を経るごとに変化していくべきかと思いますが、未だアップデートできていないところもあるように思います。どんな内容にしていくか、とことん話し合い、アップデートする必要があるように思います。
- ✓ ふるさと創造学の目的をしっかりと共有することが重要であることを再認識した
- ✓ 絆づくりやサミットなど郡内にある小中学校の交流が行われているが、各校同士がさらに深く永くつながりあっていけるような取り組みも考えていけるとよい。
- ✓ 双葉郡という今では特殊な環境になってしまったが、その特徴を生かしたものになっているのではないかと思う。今後どう発展していくか、子どもたちが双葉郡をどうしていくのか、「今後」「これから」が大切になってくる。

- ✓ 「震災学習を大前提とした村の発展」という暗黙の了解を取り壊し、今の児童生徒が「やりたいこと、探求したいことを創造する」という認識に変化するとよいと感じた。
- ✓ 地域で力をつけて世界へという発想、とても素敵だと思います。復興という、とてつもない大きな課題に立ち向かう大人達の姿を間近で見ることで、世界規模の課題に立ち向かえる子ども達がどんどん育ってほしいなと思いました。

2. 教職員による双葉郡子供未来会議

□ 実施概要

日時：2026年2月3日（火）13：00～16:10

場所：浪江町防災交流センター

目的：双葉郡独自の魅力的な教育の更なる充実、発展および教職員の町村や校種を越えた交流・情報共有

講師：千葉 偉才也 先生（国立大学法人福島大学 教育推進機構 高等教育企画室 特任准教授）

内容：

① 堀本教育長による講話

「震災の記憶と双葉郡教育復興ビジョン」

東日本大震災当時の町や学校の様子、避難に至るまでの経緯や学校での初動対応、度重なる避難生活の中で生徒や教職員が直面したさまざまな困難について実体験に基づく講話をいただいた。また、なぜ「双葉郡教育復興ビジョン」が策定されたのか、そして、なぜ双葉郡8町村が連携した取組が必要なのかについてもご説明いただいた。



② 各校のふるさと創造学の共有

7つのグループごとに、自校のふるさと創造学の実践共有



③ 探究サイクル実践ワーク

講師の千葉 偉才也 先生より「まわって、まわして、問いが変わる」をテーマに、探究サイクルの捉え方や、探究サイクルを複数回まわすことの意義・重要

性についてお話をいただいた。また「よい探究学習とはどのような学習なのか？」をお題にグループワークを行った。



□ 参加者数 計 48名 ※関係者含む

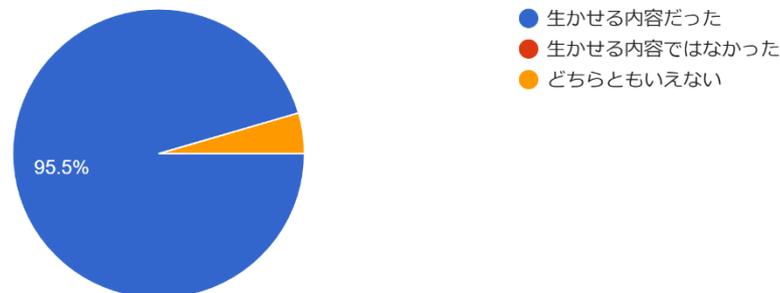
参加者内訳：双葉郡内 26名（教職員 20名、教育委員会 6名）

双葉郡外 22名（教育委員会等 12名、その他関係者 10名）

□ 振り返りアンケートより（抜粋）

1. 本会は、今後の指導や取組に生かせる内容でしたか。

22件の回答



◇ 参加した感想等

- 震災当時の様子について、写真と合わせてとても鮮明なお話を聞くことができた。双葉郡が受けた傷の深さを改めて知り、復興への歩みをさらに進めていこうという思いが強まった。
- 小中学生が震災の実体験がない世代となる中での双葉郡の教育をどのように考えていくか、教員も双葉郡に馴染みや縁がある方ばかりではない中で、震災の記憶と経験を継承していくことの重要性を改めて感じることができました。
- 各校ごとに工夫して取り組まれていることがよく分かりました。ある先生が、「自分のふるさとだけでなく、他のふるさとのことも知りたいという先生がいた」とのお話をされていました。ルーツが多様化している中、「ふるさと」を美学的に語ることは難しくなっていることを改めて感じました。特

に、「ふるさとはいいものだ」という押しつけにならぬように配慮しつつ、自分が住む地域への関心を高めていくことが必要だと考えるに至りました。

- 「探究」と一言にいても、様々な捉え方があり、それを共有することで学校としての取組を充実させることに結びつくと感じました。また、「探究」を探究の時間だけにとどめず、他の教科・領域でもこのまわし方を生かした学びを進めていくことが求められると思いました。
- 私たち自身が探求した時間でした。問いが変化したきっかけというか、次の問を探しながら協議を回していました。子どもたちの探求の時間も同様で、次の問い（目標や課題）を探しながら探求のスパイラルを回していく視点が必要だと感じました。

3. 「ふるさと創造学 令和7年度・実践事例集」制作

目的：双葉郡8町村が連携して行う「ふるさと創造学」の各校の取組の共有およびアーカイブ

内容：各校のふるさと創造学取組内容（テーマ、活動内容・手法、ねらい等を含む）

発行部数：900部

配布対象：郡内教職員、関係者、他町村教育委員会等

発行日：2026年2月24日



(6) ICT活用推進・広報誌編集制作

□ 目的

ICT活用：

離れている双葉郡の学校同士をつなげ、子供たちへの教育効果を高める

広報誌制作：

広報誌制作双葉郡内各校の取組や子供たちの姿・思いを、教員や子供の視点を大切に地域内外へ取組を発信することで、ふたばの絆をつくとともに、表現・発信等のアクティブ・ラーニングにつなげる

□ 体制（ICT活用・広報委員会）

委員長：南郷市兵 学び舎ゆめの森校長

委員：各町村小・中・義務教育学校、高校より1名（計17名）

□ 取組概要

➤ ICT活用・広報委員会

日時：2025年10月29日（水）14：00～16：00

場所：大熊町立学び舎ゆめの森

内容：各校におけるICT活用の取組状況や課題の共有

ICT活用に関する情報交換および意見交換

広報誌「ふたばの教育 Vol.16（2026年春号）」の制作予定説明

- 先進地域視察
 - 日時：2025年11月7日（金）10：00～16：20
 - 場所：新地町立福田小学校 他
 - 内容：ICT活用発表会
- 広報誌の各校学校ページの内容検討、素材準備等

□ 広報誌「ふたばの教育 Vol.16」概要

号	2026年春号（Vol.16）
発行	2026年2月24日発行
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ふたばのせんぱいインタビュー ・ふたば生徒会連合による学校自慢 ・各校の学校取組紹介 ・絆づくり・中高生交流会、ふるさと創造学サミットレポート等
読者	双葉郡8町村の地域住民（各町村広報誌に同封し全戸へ発送）、各校保護者・双葉郡内教育関係者、一般等
発行部数	38,000部



(7) ふたば生徒会連合

□ 目的

交流を通じ生徒たちが主体性・協働性・創造性を発揮するとともに、町村や世代の垣根をこえて双葉郡のつながりを感じられるようにする

□ 体制（ふたば生徒会連合担当委員会）

委員長：横田和典 葛尾中学校長

委員：各町村中学校・義務教育学校、高校より1名（計10名）

□ 取組概要

- 担当委員会（教職員）

5月27日、7月15日、11月11日、1月23日（年4回）



- 生徒活動

- ふたばミーティング（ビデオ会議）

7月1日、7月7日、7月23日※対面会議、10月2日、10月9日、11月20日、12月16日、1月15日（計8回）



- 中高生交流会 運営サポート



- ふるさと創造学サミット 運営サポート



- 広報誌「ふたばの教育 vol.16」生徒会連合ページ制作、校正協力 等



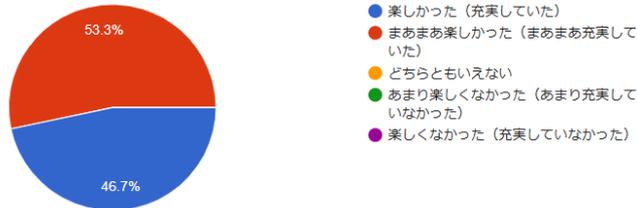
□ 活動の振り返り

生徒振り返りアンケートより

<前期>

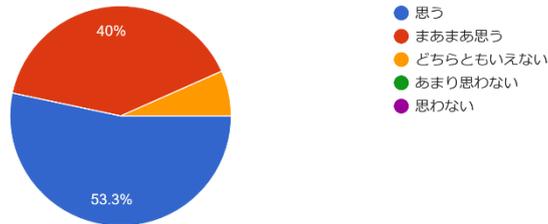
2. 7/23 (水) にふたば未来学園で実施した対面の第3回ふたばミーティング (対面会議) での活動は、楽しかったですか? (充実していましたか?)

15 件の回答



6. ふたば生徒会連合の活動を通して、他校の生徒と交流することができていると思いますか?

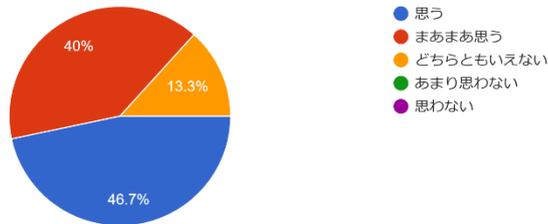
15 件の回答



7.

ふたば生徒会連合の活動を通して、「双葉郡」としての横のつながりが強まっていると思いますか?

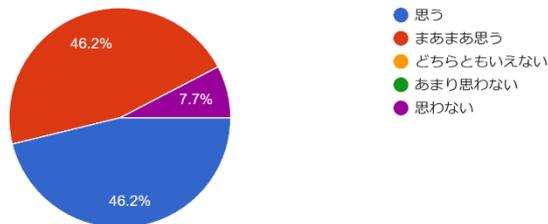
15 件の回答



<後期>

3. ふたば生徒会連合の活動を通して、他校の生徒と交流することができていると思いますか?

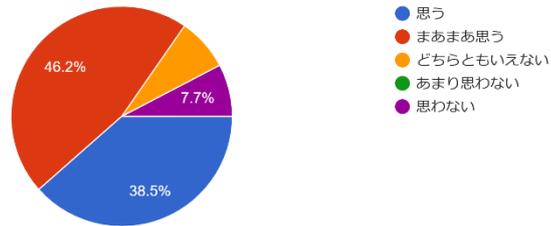
13 件の回答



4.

ふたば生徒会連合の活動を通して、「双葉郡」としての横のつながりが強まっていると思いますか？

13件の回答



(8) その他

□ 東京書籍「新しい公民」・「新しい社会」の教科書掲載

「ふるさと創造学」については、東京書籍の「新しい公民」及び「新しい歴史」の令和3年度版教科書（中学生対象）に掲載されており、令和7年度発行版についても「新しい歴史」には継続して掲載されることになっている。



ともに、地域の人々の情報交換の場となっています。

●「ふるさと創造学」(福島県双葉郡)

「ふるさと創造学」は、「震災で子どもたちが得た経験を、生きる力に」との思いから、福島県双葉郡内の8町村の学校が取り組んでいる「総合的な学習の時間」の総称です。各町村の子どもたちは、東日本大震災にともなう復旧・復興に向けた地域の取り組みの経験を基に、ふるさとの将来に向けての提案を考え、ふるさとの人々や世話になった避難地の人々に元気を発信し続けています。



以上